

- 皮膚(又は髪)に付着した場合(溶融物) : 皮膚に付着した場合: 冷たい水に浸すこと。又は湿った包帯で覆うこと。
火傷した箇所は直ちに冷水ですできるだけ長時間冷やす。皮膚に付着した衣服は剥がしてはならない。
直ちに医師に連絡する。
- 眼に入った場合(固体、溶融物) : 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。
その後も洗浄を続けること。
眼をこすらせてはならない。
直ちに医師の診察/手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合 : 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
気分が悪いときは医師に連絡すること。
- 急性症状及び遅延性症状の最も重要な徴候症状 : 徴候症状及び影響に関する具体的な情報なし。
- 応急措置をする者の保護に必要な注意事項 : 医師に対する特別な注意事項に関する情報なし。

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 火災の場合は泡、粉末、炭酸ガス、乾燥砂を使用すること。
- 使ってはならない消火剤 : 噴流水を消火に用いてはならない。
- 特有の危険有害性 : 燃焼の際に有毒な炭素酸化物を生成する。
- 特有の消火方法 : 関係者以外は安全な場所に退去させる。
霧状水により容器を冷却する。
安全な距離から散水冷却して周囲の設備を保護する。
- 消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置 : 防火服又は防災服を着用すること。
消火作業従事者は全面型陽圧の自給式呼吸保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 関係者以外は近づけない。
適切な保護具を着用する。
着火源を取除くとともに換気を行う。
安全に対処できる場合は漏洩を止める。
- 環境に対する注意事項 : 漏れ出した物質の下水、排水溝、低地への流出を防止する。
下水、排水中に流してはならない。
- 封じ込め及び浄化の方法及び機材 : 掃き集めて、容器に回収する。
溶融物が漏出した場合は、水・土・砂等で冷却固化した後、容器に回収する。
- 二次災害の防止策 : 汚染箇所をウエス等で拭き取る。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
- 技術的対策 : (取扱者のばく露防止)
粉じん/煙/蒸気の吸入を避けること。
(火災・爆発の防止)
熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
(局所排気、全体換気)
溶融物を取扱う場合は、排気/換気設備を設ける。
(注意事項)
皮膚に触れないようにする。
眼に入らないようにする。
溶融物を取扱う時は火傷しない様に注意する。
- 安全取扱注意事項 : 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
指定された個人用保護具を使用すること。
- 接触回避 : 強酸化性物質との接触を避けること。
溶融物の、銅、銅合金との接触は避けること。

衛生対策 : 眼、皮膚、衣類につけないこと。
 取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。
 この製品を使用するとき、飲食又は喫煙をしないこと。
 取扱い後はよく手を洗う。

保管

安全な保管条件 : 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
 涼しいところに置き、日光から遮断すること。
 施錠して保管すること。
 (避けるべき保管条件)
 高温を避けること。

安全な容器包装材料 : データなし

8. ばく露防止措置及び保護措置

管理指標

管理濃度 : データなし
 許容濃度 : 日本産衛学会の許容濃度 データなし
 ACGIH(1987) TWA 2mg/m³ (上気道刺激 吐気)

ばく露防止

設備対策 : 洗眼設備を設ける。
 手洗い/洗顔設備を設ける。
 溶融ワックスを取扱う場合は、排気/換気設備を設ける。

保護具

呼吸用保護具 : 換気が不十分な場合、呼吸用保護具を着用すること。
 手の保護具 : 保護手袋を着用する。推奨材質: 非浸透性もしくは耐化学品ゴム
 眼及びまたは顔面の保護具 : 側面シールド付安全メガネまたは化学品用ゴーグルを着用する。
 皮膚及び身体の保護具 : 保護衣を着用する。

9. 物理的及び化学的物質

物理状態 : 固体 (ペレット状)
 色 : 白色
 臭い : 微臭
 臭いの閾値 : データなし
 融点 / 凝固点 : 57 - 60°C
 沸点又は初留点 : データなし
 沸点範囲 : データなし
 可燃性(ガス、液体及び固体) : 可燃性
 爆発下限界及び爆発上限界 / 可燃限界 : データなし
 引火点 : 236°C
 自然発火点 : データなし
 分解温度 : データなし
 pH : データなし
 動粘性率 : 適用外
 溶解度 : 水に対する溶解度 : 不溶
 溶媒に対する溶解度データなし
 n-オクタノール/水分 : データなし
 配係数 : データなし
 蒸気圧 : データなし
 密度及び/又は相対密度 : 約0.9g/cm³(固形パラフィン)、0.77g/cm³(80°C溶融時)
 相対ガス密度(空気=1) : データなし

粒子特性 : データなし

10. 安全性及び反応性

反応性 : データなし
 化学的安定性 : 通常の保管条件/取扱い条件において安定である。
 危険有害反応可能性 : データなし
 避けるべき条件 : 高温を避けること。
 突沸のおそれがあるため、溶融時に水分を混入させないこと。
 混触危険物質 : 強酸化性物質
 (溶融時)銅、銅合金
 危険有害な分解生成物 : データなし

11. 有害性情報

毒性学的影響に関する情報

急性毒性 : (経口)
 ラットの LD50 値 > 5000 mg/kg (IUCLID (2000))、> 3750 mg/kg (IUCLID (2000)) に基づき区分外とした。
 (経皮)
 ウサギの LD50 > 3600 mg/kg (IUCLID 2000) に基づき、JIS 分類の区分外 (国連分類基準の区分 5 または区分外) とした。
 皮膚腐食性/刺激性 : ウサギを用いた Draize 法による 2 試験において、24 時間適用で「not irritating」と「slightly irritating」の結果があり (何れも IUCLID (2000))、また 20 人のボランティアでの皮膚刺激性試験の結果、1 人にわずかな紅斑が認められた以外、他の 19 人は刺激性を示さなかったとの報告がある (IUCLID (2000))。以上の結果に基づき、区分外とした。
 眼に対する重篤な損傷性 / 眼刺激性 : 眼刺激
 ウサギを用いた Draize 法類似試験において、軽度 (slightly) の刺激性 (IUCLID (2000)) およびウサギの標準 Draize 試験において軽度 (mild) の記述 (RTECS (2008); Journal of the American College of Toxicology. 3 (3), 43, 1984) に基づき、区分 2B とした。
 [日本公表根拠データ]
 (固形パラフィン)
 ラビット Draize test: 軽度の刺激性 (IUCLID, 2000 et al)
 呼吸器感作性又は皮膚感作性 : データなし
 生殖細胞変異原性 : in vivo 試験のデータがなく分類できないとした。なお、Ames 試験 (in vitro 変異原性試験) で陰性の結果がある (農薬安全情報 (1992))。
 発がん性 : ラットに 2 年間経口投与した試験で、腫瘍の発生率は対照群と比較して差は認められなかったとの報告があり、長期毒性試験における、実験動物に対するパラフィン是非発がん性であるとの記述がある (JECFA (1993))。またウサギ・マウスの 2 年間経皮試験では、発がん性は認められていない (EHC20 (1982)) との報告もある。しかし、経口投与による試験では動物 1 種のみでの試験データしかなく、区分外とするには疑義が残るため「分類できない」とした。
 労働基準法 : がん原性化学物質
 固形パラフィン
 生殖毒性 : データなし
 特定標的臓器毒性 (単回ばく露) : 呼吸器への刺激のおそれ
 ワックスヒュームは眼・鼻・のどに軽度 (mild) の刺激性 (PATTY 5th (2001)) に基づき、区分 3 (気道刺激性) とした。
 [区分 3 (気道刺激性)]
 [日本公表根拠データ]
 (固形パラフィン)
 気道刺激性 (PATTY 5th, 2001)
 特定標的臓器毒性 (反復ばく露) : ラット 90 日間経口投与試験 (0, 160, 1600 mg/kg/day) において、赤血球と血小板の減少、肝細胞の空包化、肉芽腫の発達、壊死、腸間膜リンパ節における肉芽腫の発現、細胞の過形成、頸部リンパ節における肉芽腫の発現、心臓僧坊帽弁の基部におけるリンパ球様細胞浸透の増加

(JECFA 1056(2003))などの所見が用量依存的に見られたが、区分2のガイダンス値以下で試験が行われていないためデータ不足により分類できない。

誤 え ん 有 害 性 : データなし

12. 環境影響情報

生態毒性 : データなし
 水溶解度 : (固形パラフィン)
 溶けない (ICSC, 2003)
 残留性・分解性 : データなし
 生体蓄積性 : データなし
 土壌中の移動性 : データなし
 オゾン層への有害性 : データなし

13. 廃棄上の注意

廃棄物の処理方法 : 内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。
 承認された廃棄物集積場で処理する。
 下水、地中、水中への廃棄を行ってはならない。
 汚染容器及び包装 : 内容物を使い切ってから、容器を廃棄すること。

14. 輸送上の注意

国連番号、国連分類 : 該当しない
 品名 : 該当しない
 国連分類 : 該当しない
 容器等級 : 該当しない
 IMDG Code (国際海上危険物規程) : 該当しない
 IATA 航空危険物規則書 : 該当しない
 環境有害性
 MARPOL 条約附属書Ⅲ
 -個品有害物質による
 汚染防止
 海洋汚染物質 : 非該当
 特別の安全対策 : データなし
 バルク輸送における : 該当しない
 MARPOL 条約附属書Ⅱ改訂有害液体物質及びIBCコード
 船舶安全法 : 該当しない
 航空法 : 該当しない

15. 適用法令

労働安全衛生法 : 特化則に該当しない製品
 有機溶剤等に該当しない製品
 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物
 名称表示危険/有害物
 固形パラフィン(別表第9の170)
 名称通知危険/有害物
 固形パラフィン(別表第9の170)
 化学物質排出把握管理促進法(PRTR法) : 該当しない
 毒物及び劇物取締法 : 該当しない
 化審法 : 該当しない
 消防法 : 指定可燃物 可燃性固体類(届出数量 3,000kg)

16. その他の情報

引用文献 : Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, UN
Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 21th edit., 2019 UN
IMDG Code, 2018 Edition (Incorporating Amendment 39-18)
IATA 航空危険物規則書 第62版 (2021年)
2020 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK (US DOT)
2021 TLVs and BEIs. (ACGIH)
JIS Z 7252 : 2019
JIS Z 7253 : 2019
2020 許容濃度等の勧告 (日本産業衛生学会)
Supplier's data/information
GESTIS-Stoffdatenbank
Pub Chem (OPEN CHEMISTRY DATABASE)

★この製品安全データシートは各種の文献などに基づいて作成していますが、必ずしもすべての情報を網羅しているものではありませんので、取り扱いには十分注意して下さい。

また、含有量、物理/化学的性質、危険有害性などの記載内容は、情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。なお、注意事項は通常の取り扱いを対象としたものであり、特殊な取り扱いをする場合には、その用途・用法に応じた安全対策を実施して下さい。

卸店: